

令和2年度 長野県小諸商業高等学校 学校評価 自己評価(最終評価)

学校教育目標		中・長期的目標
教育活動を通して、個人の尊厳と協調の精神を体得させ、民主的な国家社会の形成者たる資質を培うとともに、専門教育により広く国民経済における商業諸活動の担い手としての有為な人材を育成する。		<ul style="list-style-type: none"> 心身ともに健全で、人間性豊かな生徒を育てる。 学校生活および社会生活における規律を重んじ、自らを厳しく律することができる心を育てる。 学習習慣を確立させ、自ら考え、自ら学ぶ態度を育てる。 進路目標を明確にさせ、その実現に向け前向きに粘り強く努力する姿勢を育てる。
今年度の重点目標	評価	今後の課題・改善策等
<ul style="list-style-type: none"> 基本的な生活習慣の確立及び挨拶・身だしなみ等の徹底を図る。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 生活リズムの乱れ等の理由で、遅刻・早退が目立つ生徒がいたり、身だしなみ違反の生徒も一部ではあるが存在する。粘り強く指導して行きたい。 基本的な生活習慣や挨拶に関してはおおむね良好である。身だしなみについては日々の指導などで一定の成果は出ていると思うが、中には不十分な生徒がいるので今後もきめ細かい指導が必要である。
<ul style="list-style-type: none"> 自ら課題を発見し、その解決に向けて主体的・協働的に取り組む力を育成する。 	B	<p>生徒会行事へ向けて自主的に活動する姿も見られてきた。2年生は、生徒会を引っ張っていく立場となったので、役員だけでなく学年・学校全体で活発な活動になるよう指導して行きたい。</p> <p>。日々の学習活動や生徒会などの課外活動を通じて成長を感じる面があるが、それが学年全体の雰囲気を作るまでに至っていない点が今後の課題である。</p> <ul style="list-style-type: none"> 各学年で、状況に応じた内容の進路企画を実施した。3年生においては、休校明けの6月より夏期休業に向けてガイダンスを行い、自己実現のために努力する意識の向上を図った。2年生においては、分野別ガイダンスを実施して自分に適した進路を選択する態度を育てた。1年生においては、ガイダンスを通して将来の生き方を模索する態度を育てた。
<ul style="list-style-type: none"> 地域と連携しながら、様々な人々やグループと共感し社会性・協調性を育む。 	C	<ul style="list-style-type: none"> 今年度はコロナウイルスの影響で、例年生徒会として協力している地域からの依頼等もなかった。今後も状況にもよるが積極的に地域との連携を図りたい。 上半期はコロナの影響で、スマイル小商店街に向けた「課題研究」をはじめ、新企画デュアル実習や各企業提携事業において、計画通りに実施することができなかったが、下半期は感染防止に努めながら計画の見直しや工夫をして、目標達成に向けて取り組むことができた。
<ul style="list-style-type: none"> 生徒一人ひとりの人権を尊重し、いじめ・体罰のない安心・安全な学校をつくる。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 不安や悩みを抱えている生徒に対して、関係する職員と協力してそれぞれ対応している。また、統一された支援のため、引き継ぎや情報共有については分かりやすい資料作りを考える。 友人関係の築き方、コミュニケーションの取り方等で悩みを抱える生徒が存在する。個々の状況を踏まえ、相談・指導を継続して行きたい。 新型コロナウイルスに関係した人権侵害に関する資料を作成し、情報提供を行った。これに関連してSHRやLHRにおいて、生徒への学習や指導を学級担任等へ依頼した。
<ul style="list-style-type: none"> 学校評価アンケートにおいて、保護者満足度85%以上の達成を目指す。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 「保護者満足度」85%超えを達成 今後も、生徒一人ひとりが学習面、部活動、生徒会活動、進路指導面、生徒指導面で自己肯定感を持って充実した高校生活を送ることが出来るように職員一人ひとりが心掛ける必要がある。 生徒の実態・現状を踏まえながら各係、教科、部活動等で対策を講ずることも必要。 オクレンジャーなどで、保護者に必要な情報を発信していくことも不可欠。

<4段階評価>

A…達成できた B…ほぼ達成できた C…あまり達成できなかった D…達成できなかった

【係・委員会】

係等	今年度の重点目標	具体的な方策	評価	今後の課題・改善策等
教務	円滑な学校運営の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・教務係会を充実させる。 ・新型コロナウイルス感染症への臨機応変な対応を図る。 ・職員会議、朝会等の計画・運営を円滑に行う。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・各項目で、ほぼ計画通り実施できた。 ・新型コロナウイルス感染症に適切に対応できた。 ・新型コロナウイルス感染症の対応には、今後引き続き注意を払う必要がある。
	広報活動の充実と生徒募集対策	<ul style="list-style-type: none"> ・体験入学、授業公開、クラブ体験、入試説明会等を円滑に実施する。 ・ホームページ、広報誌、中学校訪問等を充実させる。 ・統合を見据えて、中学生・保護者に分かりやすい学校パンフレット「SCHOOL GUIDE」の作成及び配布 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・体験入学は職員・生徒会役員協力のもと円滑に実施することが出来た。参加中学生数は227名(昨年 274名)で減少理由を検証する必要がある。実施後のアンケートは好意的なものが多かった。 ・生徒募集に向けて魅力的な広報活動を充実させたい。 ・分かりやすいパンフレットを作成・配布することが出来た。
生徒指導	登下校中の安全の確保	<ul style="list-style-type: none"> ・登下校指導により交通ルールを徹底させる。 ・自転車通学者に交通安全を定期的に啓発する。 ・交通以外の危険性もそれぞれ認識させる。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・登下校指導で継続しておこなう。 ・現時点で大きな事故は起きていない。 ・各HRや全校集会などで注意喚起をおこなう。
	身だしなみの確立	<ul style="list-style-type: none"> ・家を出る時から帰宅まで身だしなみを崩さない指導と助言を行う。 ・オフィシャルウェアとプライベートウェアの違いを理解させる。 ・リップクリームや日焼け止めは無色透明なものを利用させる。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ネクタイリボン、スカートの正しい着用ができない生徒がいるため、身だしなみ指導の徹底を粘り強くおこなう。 ・理解が浸透しているとは言えないため、継続的に理解を深めるよう指導を行う。 ・改善は見られるが、一部で改善の必要性が見られる。
生徒会	他人事ではなく自分の事として、責任を持って積極的に委員会活動へ参加させる	<ul style="list-style-type: none"> ・委員会活動の意義と各委員会の役割を理解させ、自覚と責任をもって仕事に当たらせる。 ・委員会活動の意義と各委員会の役割を理解させ、自覚と責任をもって仕事に当たらせる。 ・受け身ではなく、自ら出来ることを考え、実行していきけるような積極性と責任感を持たせる。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・概ね責任のある立場ということを理解しているが、中には自覚がなく人任せな役員がいるため、引き続き指導を行う。 ・考えることだけでなく、自ら考えたことに責任を持ち実行していきけるように指導を継続する。
	各種行事に全力で取り組み、一つ一つの行事が役員だけでなく全校生徒が満足のいくものとなるよう努力する。	<ul style="list-style-type: none"> ・各種行事については、全校生徒が「与えられて」行うのではなく、全校生徒で「作り上げて」いけるようなものとなるよう工夫させる。 ・行事の企画運営に関し、リハーサル徹底にこだわり本番さながらの準備ができるよう、適切な助言・指導を行う。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・合唱コンクールでは生徒自ら感染症対策について考えさせ、例年とは違った形でありながら運営をすることができた。 ・各行事ではリハーサルを丁寧に行い、本番を想定した取り組みができた。
進路指導	生徒一人ひとりが、自分の可能性に期待し、自分の可能性を大きく広げる努力を継続できるような支援	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の発達段階に合わせた進路行事を立案する。 ・上級学校と協力し出前授業や特別講座などを行うことで生徒の学校選択の幅を広げる。 ・企業との連絡を密にとり、生徒が力を発揮できる企業の開拓に努める。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 各学年で、生徒の状況に応じて進路意識を高める企画を立案して実施したが、今後も進路決定に向けて支援できる企画を模索していく。 専門学校や予備学校と連携して出前授業を実施したが、今後も外部講師の積極的な活用を重視し、生徒に主体的に学ぶ態度を身に付けさせるようにする。 毎年、地域に根差した企業に就職する卒業生が多いため、雇用維持につながるよう関係性をさらに重視する。デュアル実習で企業との連携を図りながら、働くことの意義や役割について考えを深めさせ、職業選択の幅を広げられるようにする。
	2020年高大接続改革に向けた情報収集と提示、指導計画の立案	<ul style="list-style-type: none"> ・高大接続改革に関する研究会等への積極的に参加する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 高大接続改革における内容の情報収集をして、進路実現に向けた対応ができるようにする。

係等	今年度の重点目標	具体的な方策		
図書	生徒の教養・知識の育成と学習センターとしての役割	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館利用の促進を図る ・図書委員の指導 ・図書の貸出返却の手続き・貸出期限の厳守 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・蔵書の分類整理の徹底と館内と書庫の廃棄など環境が整えられた。 ・中止になった行事もあったが、委員は当番活動や本の整理などの仕事に関わった。 ・6月から朝読書を実施することができた。
	必要な情報を収集、選択、活用する能力育成のための情報センターとしての役割	<ul style="list-style-type: none"> ・蔵書の配分比率に即して本を収集する ・購入希望調査 ・図書館教諭・司書の研修会参加 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒、職員からの希望に応え、図書館利用が促進された。 ・近隣の図書館ネットワークを利用し、授業で活用する資料を集めることができた。
	読書を楽しむ想像力と豊かな心をはぐくむ読書センターとしての役割	<ul style="list-style-type: none"> ・広報活動を積極的に行う ・他校との交流 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館便りを定期的に発行し、生徒、職員、保護者に情報を発信した。 ・朝読書の事前連絡を徹底し、本の準備を促した。
整美	校舎内外の環境美化に取り組む	清掃用具を整備して各自が清掃活動に参加できるようにする。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・大掃除に際し敷地内および校外のゴミ拾いを実施した。 ・新しいモップに交換することで清掃用具の環境を整えた。
	ゴミの分別の徹底を図る	各クラスやゴミ集積所で、美化委員により呼びかけを繰り返す。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・教室からゴミ箱を撤去することで感染症予防の意識を高めた。 ・各掃除場所でのゴミの分別が課題。
視聴覚	ICT機器を活用できる学習環境の整備	必要な機器を購入して学習効果が上がるように、環境の整備に努める。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・無線に対応するICT機器の導入や活用が課題。 ・全職員が活用できる環境整備が課題。
	生徒会活動に合わせた適切な放送運営	昼の放送で時候に合わせた放送を行う。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・委員による適切な放送機器の使用に努めた。 ・放送室の整美強化が課題。
PTA	PTA活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・厚生委員会 「PTA講演会」の企画エコキャップへの関心を促す。 ・教養・生徒指導委員会 「朝の声掛け指導」で生徒とふれあう。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・PTA講演会は、講師が決定し依頼をしたが、社会情勢を鑑み中止した。エコキャップ収集は実施しなかった。「朝の声掛け指導」を3日間おこない、「PTA会報」を発行して交流に努めた。
	学校に足が向くPTAづくり	<ul style="list-style-type: none"> ・魅力あるPTA総会づくりと参加呼びかけ ・必要性を感じる学年・学級PTAづくりと参加呼びかけ ・文化祭・スマイル小商店街への参加呼びかけ ・PTA・同窓会講演会への参加呼びかけ 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事の公開に限られたため、積極的な参加を呼びかけることは難しかった。
人権・平和	<ul style="list-style-type: none"> ・生命の大切さ、一人ひとりの人間としての尊厳を意識させ、自他を尊重することができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全校生徒対象の人権映画鑑賞を実施する。 ・1年生対象の情報モラルについて学習会を実施する。 ・他の係と連携をとり、人権意識の向上に努める。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・映画鑑賞は新型コロナウイルスの関係で中止した。新型コロナウイルスに関する誹謗中傷などの人権侵害を取り上げ、指導の情報提供を行った。 ・今年度においては講演会は実施できなかった。教科と協力し情報マナー等の指導を行った。 ・新型コロナウイルスに関係した人権侵害に関する情報を提供した。
	<ul style="list-style-type: none"> ・沖縄修学旅行や他教科の授業と連携して、平和社会の重要性を認識し、その担い手である主体者意識の育成を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・修学旅行の事前学習及び1年の学年行事など学年とも連携し、平和の重要性を認識させる。 ・各教科とともに連携し、生徒が平和の意識を継続させることができるよう、配慮する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・SHRやLHRにおいて、資料を作成し、新型コロナウイルスに関係した人権侵害に関する生徒への学習や指導への情報提供(日本赤十字社の動画提供2020.6.17, 新潟県見附市の漫画ポスター掲示8.26, 長野県感染拡大による人権侵害新聞記事の提供2012.1.20))を行った。 ・平和学習と各教科との連携は、沖縄への修学旅行が中止となり、例年の学習が行われなかったが、新型コロナウイルスに関する人権侵害等の事例をもとに指導資料としての情報提供を行った。
同窓会	学校や生徒のニーズに合った講演会を計画し行う。PTA係と連携して有意義な活動にして行く。	<ul style="list-style-type: none"> ・より良い同窓会講演会を計画する。 ・学校、生徒の要望を正確に捉え、同窓会として応えられることを行っていく。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は、新型コロナウイルスの感染拡大の影響で、同窓会総会、並びに同窓会講演会(PTAと連携)は開催できなかった。 ・同窓会会報については、事務局の尽力により、作成していただき、全校生徒及び保護者、全職員に配布することができた。

係等	今年度の重点目標	具体的な方策	評価	今後の課題・改善策等
保健	日常生活の中で健康を意識し、自他ともに健やかで安全な生活を送れる生徒の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・保健室に来室した際に適切な処置、指導を行う。 ・ほけんだよりを月に1度発行したり、掲示物の活用を積極的に行う。 ・生活習慣等、生徒と接する中での気づきを指導の中に取り入れる。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は新型コロナウイルス感染症の影響もあり、通常よりも徹底した処置や指導を行うように努めた。引き続き慎重に対処していきたい。 ・ほけんだよりについても、感染症予防のための基本行動から基礎体力づくり、メンタルケア等について啓発することが出来たが、通常の保健に関する啓発は手薄になってしまったので次年度はその点も加えて啓発運動に努めたい。 ・感染症予防について習慣づけられるように日頃より心がけて指導できた。引き続き行っていく。
	心理的に不調がある生徒の把握と支援	<ul style="list-style-type: none"> ・担任や生徒相談係など、各係との連携を日ごろから行う。 ・地域の関係機関と密に連携を取り、家庭を含めた支援に繋げる。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は相談件数も多かったが、関係職員と積極的に連携を取り、対応することが出来た。対応する関係職員も積極的に増やし、より手広く支援が出来るように体制を整えることが出来た。次年度もこの経験を活かし、生徒のより良い支援に繋げられるように連携に努める。 ・今年度はスクールカウンセラーの利用も多かった。また、外部の医療機関の受診を進めるなど、地域、家庭との連携も積極的に行い、多方面からの支援に繋げることが出来た。次年度も引き続き迅速な家庭、地域との連携を図り、対応していきたい。
	健康に関する知識を持ち、自己決定や判断ができる生徒の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・学年全体での保健講話を年に1度は設けるなど、学年が持つまたは求める保健課題に沿った保健指導を行う。 ・必要に応じて他科目との連携を行い、指導をする。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・2学年の性教育については、講師と相談の上、感染対策を十分行った上で実施できた。コロナ禍においての望まない妊娠を考えるなど、情勢を踏まえた視点で性教育を実施できた。他学年については新型コロナウイルスの影響を受け、保健講話の実施には至らなかった。次年度、学年の希望を聞き、実施に繋げたい。
生徒相談	いじめ・悩みを抱えた生徒及び特性を持つ生徒の把握と適切な対応・支援	<ul style="list-style-type: none"> ・「いじめ・悩みに関するアンケート」実施 ・生徒相談委員会、学年、学級担任、保健室との連携 ・SC・SSWの活用 ・保護者連絡シートの実施と活用 ・支援会議の計画・実施 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・7月と12月の2回実施。記述内容によって個別に面接をし、職員間で情報共有できた。重要な案件に関しては係、学年で連携して対処した。 ・適宜行っている。 ・必要に応じて活用できている。 ・入学時に回収し、集計。職員会議に出し、情報共有に活用できた。また、効率的にシートが活用できるよう、内容の見直しを行った。 ・本年度は実施していないが、教科担当者会議を行い、生徒の支援を行った。
	職員研修の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・本校の実態に即した研修の実施 ・職員への情報提供 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・自殺予防、アセスの研修会を実施した。また実施後の結果については共有の仕方を考えた。
3学年	挨拶・言葉遣い・身だしなみに注意し、人の話に謙虚に耳を傾けさせる。	<ul style="list-style-type: none"> ・周囲の人に常に心を向ける意識を持ち、挨拶、言葉遣い、そして身だしなみにも気を遣うことや話をしている人に懸命に耳を傾けることの重要性を認識させる。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 入学試験や就職試験に向けて身だしなみに対する意識の向上があったが、進路決定以降も全体的にはそれほど乱れはなかった。若干の生徒に問題があったが、粘り強く指導していく必要があった。
	進路目標を定め、目標達成に向けて入念な準備をさせていく。また、準備に携わる際に周囲の人への感謝の気持ちを忘れず、さらなる成長を遂げるように指導する。	<ul style="list-style-type: none"> ・進学・就職を問わず、希望する進路を実現するために地道な努力を積み重ねることの大切さを認識させる。また、周囲の人の支援の下で目標達成に向けて取り組めることに感謝し、大きく進歩できる1年にするよう努力させる。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症の影響が大きく不安になる生徒も少なくなかった。進路実現に向けた生徒の取り組み方に差があり、合格・採用に結びつくのか不安に感じてしまう生徒がいた。生徒の準備状況を注意深く観察し、状況に応じて対応することが望ましいと感じた。
	進路決定後は社会人になるという意識を持ち、後輩達へのお手本となるような学校生活を送れるように指導する。	<ul style="list-style-type: none"> ・周囲の人に関わってもらい実現した進路について、さらなる目標を掲げて強かに取り組むことに重きを置かせる。また、後輩は先輩の背中を見て育つため、校風をつくる先輩としての責任の重さを痛感させる。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 進路決定後も卒業後を見据えて熱心に取り組む生徒の姿が見られたが、気の緩みが生活態度に表れていた生徒も若干いた。周囲の人の支援の下で生活が成り立っていることを認識させ、最高学年としての自覚を持たせる指導を根気よく行うべきであった。
二学年	規律を守り、集団生活におけるマナーを身に付けさせる。	<ul style="list-style-type: none"> 授業や学年集会などで、身だしなみ、時間を守る、人の話に耳を傾けることを繰り返し指導する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 一部ではあるが、身だしなみが整わない生徒が存在する。特に、女子生徒でスカートを折り込む者が目立っている。指導の意味を理解させながら粘り強く指導していきたい。 集会等における態度はおおむね良好である。
	何事においても自ら考え行動する主体性を身に付けさせる。	<ul style="list-style-type: none"> 学校生活の様々な場面において、教員からの指示を待たずに、場所・状況に応じて何が必要かを自分で考えるように意識させる。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 生徒会行事に向けて自主的に活動する姿が見られてきた。生徒会役員も引き継がれているので、その活動を役員だけでなく学年全体へ広げていきたい。 教員からの指示を待たずに行動することはなかなかできていない。継続して指導していきたい。
	あらゆる機会を通して進路意識を高め、個々の進路を具体化させていく。	<ul style="list-style-type: none"> 進路ガイダンスや講演会等を有効に活用し、生徒がそれぞれの進路を具体化させるとともに、進路実現のための課題を考えさせる。 	B	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍のため計画通りの指導ができていなかったが、オンライン等の工夫をしながら指導してきた。オンライン企業博、進学WEBライブ、進路講話、社会人講話、分野別説明会等を行った。
1学年	基本的な生活習慣を確立し、充実した学校生活を送れるように指導する。	<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶、身だしなみ、清掃、時間を守ることについて、学期ごとに重点目標を定め、SHR等で自覚を促す。手帳等も利用し、常に目標を意識させる。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 挨拶についてはおおむね良好である。 学年集会や講演会などでは、真剣に聴き、メモをとる習慣ができてきている。 身だしなみなどは入学時より乱れてきており、注意していきたい。 人間関係作りやコミュニケーション能力の育成について、学校行事やHR活動などを通じて成長させていきたい。
	自己理解を促し、将来の進路についての意識付けを行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・進路検査や進路講話等を行い、自己の適性と進路選択について考えさせる。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 学年、学級通信などを通じて学習活動、学校生活へのサポートをおこなった。また、LHRで外部講師等を活用し、進路に関する意識付けや進路選択に関するワークなどを行ってきた。今後も段階に応じたサポートを継続していきたい。